高敏感者（HSP）と自閉スペクトラムの感覚特性

―感覚プロファイルを用いた分析―

○西岡千里[1]・吉田弘司[2]

([1]比治山大学大学院，[2]比治山大学)

キーワード：高敏感者（HSP），自閉スペクトラム，感覚プロファイル

Sensory characteristics of highly sensitive person (HSP) and autism spectrum:

An analysis using sensory profile

Chisato NISHIOKA[1], Hiroshi YOSHIDA[2]

([1] Graduate School of Hijiyama Univ., [2] Hijiyama Univ.)

Key Words: highly sensitive person (HSP), autism spectrum, sensory profile

目　的

自閉スペクトラム症者（以下 ASD）の感覚の特徴として，感覚過剰反応（感覚過敏），感覚低反応（感覚鈍麻），感覚探求の 3 つがあげられ（高橋・神尾，2018），DSM-5 から診断基準にもその感覚特性が追加された。Highly Sensitive Person（以下 HSP）も聴覚・視覚・触覚・嗅覚などに特異な感覚処理感受性を持つ（Aron et al.，1997）とされている。このように，両者とも特異な感覚特性を持っているが，具体的な感覚の類似点や相違点を研究したものは少ない。そこで，本研究では, HSP 傾向者と ASD 傾向者の感覚特性の類似点と相違点を感覚プロファイルを用いて検討した。

方　法

参加者　学部･大学院生 100 名が参加した（有効回答数 89）。

調査手続き　授業の時間を用いて，質問紙調査を行った。HSP 傾向は，Aron & Aron（1997）が作成し，高橋（2016）が日本語訳した Highly Sensitive Person Scale 日本版（HSPS-J19）の 19 項目を使用した。7 件法（全く当てはまらない，あまり当てはまらない，やや当てはまらない，どちらとも言えない，やや当てはまる，かなり当てはまる，非常に当てはまる）で回答を求めた。ASD 傾向には，若林（2014）が日本語版の標準化を行った AQ 指数を用いた。4 件法（あてはまらない，どちらかといえば当てはまらない，どちらかといえば当てはまる，当てはまる）で回答を求めた。感覚については，Dunn（1997）が作成した日本版青年・成人感覚プロファイル（以下 SP）を用いた。SP は，低登録，感覚探求，感覚過敏，感覚回避の 4 象限によって感覚処理のパターンが説明されるものである。

倫理的配慮　本研究は，比治山大学倫理審査委員会による倫理審査を受けて承認のうえ実施された（申請番号 2211）。

結　果

HSP の下位尺度，AQ の下位尺度，HSP 全体，AQ 全体，SP の関係性を調べるために相関分析を行った（Table 1）。その結果, 全体的な HSP 傾向を示す HSP 合計と ASD 傾向を示す AQ 合計が.297 で有意な相関を示していた。また，HSP 合計は SP の感覚過敏（.520），感覚回避（.398）低登録（.278）と有意な相関を示しており，AQ 合計も感覚過敏（.305），感覚回避（.423）低登録（.427）と有意な相関をもつことがわかった。

さらに，HSP 合計と AQ 合計を除く全変数を用いてクラスター分析（Ward 法）で参加者を分類したところ，参加者は高 HSP・低 AQ の Ⅰ 群（14 名），低 HSP・高 AQ の Ⅱ 群（28 名），高 HSP・高 AQ の Ⅲ 群（23 名），低 HSP・低 AQ の Ⅳ 群（24 名）に分かれることがわかった。分散分析によってこれらの SP を分析したところ，群の主効果はすべて有意で，低登録は Ⅲ≒Ⅱ＞Ⅳ≒Ⅰ，感覚探求は Ⅳ≒Ⅲ＞Ⅱ≒Ⅰ，感覚過敏は Ⅲ＞Ⅱ≒Ⅰ＞Ⅳ，感覚回避は Ⅲ＞Ⅱ≒Ⅰ≒Ⅳ の順になることがわかった。

考　察

本研究の結果，HSP 傾向と ASD 傾向には有意な正の相関（.297）が見られた。また，どちらの傾向も SP の感覚過敏（それぞれ.520, .305），感覚回避（それぞれ .398, .423）と有意な相関を示しただけでなく，低登録（それぞれ.278, .427）とも有意な相関をもつことがわかった。このことから，感覚過敏や感覚回避傾向は，単に感覚刺激に対する高い感受性に結びつくだけでなく，鈍感さを意味する低登録の傾向も併せ持つことがわかった。

全体を通して行った相関分析では, HSP と ASD が感覚特性において類似した傾向をもつことが示されたが，クラスター分析の結果から，参加者は，高 HSP・低 AQ（Ⅰ群），低 HSP・高 AQ（Ⅱ群），高 HSP・高 AQ（Ⅲ群），低 HSP・低 AQ（Ⅳ群）に分かれ，高 HSP・高 AQ 者（Ⅲ群）はすべての SP 次元において高い感覚特殊性をもつことがわかった。それに対し，高 HSP・低 AQ 者（Ⅰ群）は低登録でなく，感覚探求をせず，感覚回避もしない特徴をもち，低 HSP・高 AQ 者（Ⅱ群）は低登録傾向が強く，感覚探求をしないという特徴をもつことがわかった。

感覚感受性に対する理解は, HSP 傾向者や ASD 傾向者に対する環境面からの合理的配慮を考えるうえで重要な視点を提供するものと考えられる。本研究の結果は，HSP 傾向と ASD 傾向は相互に関連しながらも，複雑で異なる感覚特性パターンをもたらすことを示唆しており，今後さらに詳細な検討が必要であろうと思われる。

Table 1 AQ，HSP，SPの相関分析

	低感覚閾	易興奮性	美的感受	HSP合計	Sスキル	注意切替	細部注意	コミュ	想像力	AQ合計	低登録	感覚探求	感覚過敏	感覚回避
低感覚閾	1.000													
易興奮性	.628 **	1.000												
美的感受	-.027	-.021	1.000											
HSP合計	.878 **	.865 **	.231 *	1.000										
Sスキル	.265 *	.204 +	-.234 *	.194 +	1.000									
注意切替	.332 **	.425 **	-.024	.400 **	.409 **	1.000								
細部注意	.021	-.014	.147	.043	-.211 *	.057	1.000							
コミュ	.253 *	.321 **	-.145	.271 *	.490 **	.397 **	-.257 *	1.000						
想像力	-.077	.041	-.258 *	-.088	.273 **	.100	-.287 **	.476 **	1.000					
AQ合計	.295 **	.344 **	-.182 +	.297 **	.735 **	.678 **	.125	.750 **	.512 **	1.000				
低登録	.234 *	.360 **	-.154	.278 **	.223 *	.231 *	-.235 *	.620 **	.394 **	.427 **	1.000			
感覚探求	-.146	-.094	.345 **	-.042	-.425 **	-.118	.271 *	-.154	-.099	-.202 +	.072	1.000		
感覚過敏	.477 **	.472 **	.030	.520 **	.175	.287 **	-.018	.286 **	.142	.305 **	.539 **	-.022	1.000	
感覚回避	.376 **	.339 **	.046	.398 **	.360 **	.284 **	.037	.364 **	.108	.423 **	.435 **	-.053	.622 **	1.000

** p < .01, * p < .05